

【職場紹介】

毛筆筆耕作業

能城 美恵子会員

『書は心・やれば出来る・継続は力なり』
の教えを素に、小学二年生の頃から実践
してきました。その原動力は、師・飯高和子
先生です。先生との出会いは、書と係わ
り、歩む私の人生に大きな影響を及ぼし、
深く息づいています。



そして、もう一人の師、長野竹軒先生との出会いです。長い間、君津地方の書写指導
の講師として、理論的・具体的に実践を通して、教え導いて下さいました。教育書道の第
一人者でもあります。お二人の先生との出会いは、私の生きる礎となっています。

今、シルバー人材センターで筆耕のお仕事をさせて頂き、一年が過ぎました。筆耕の内
容は、主に賞状(感謝状・表彰状)・卒園証書です。白文(白紙に全文書き)か受者の氏
名を書くことが多いです。白文の場合、割りつけに時間がかかります。主文の文字数や、受
者・贈者の人数によって配置が変わります。線が曲がっていると、仕上がりも曲がってしま
いますので、割りつけは綿密に行います。受者の氏名書きは、中心線に気をつけます。筆を
持って書く時は、一文字一文字、神経を集中させ一気に書き上げます。その時、賞状を
汚さないように気を配ります。書き終わった後は、誤字・脱字がないか、中心線が取れてい

るか等確認をします。席を離れる時は、墨や筆の乾燥にも気を配ります。仕上がったら、再度、ご依頼の氏名・内容を確認して終了となります。

この仕事は神経を使いますが、自宅ででき、またそれ以上に、筆で文字を書く事を通して、大切な事を学ぶことができ、筆文字文化の大切さを伝えることも出来る、なによりの仕事です。

今ではパソコンでの賞状も目にしますが、手書きの文字、手書きの筆文字が消えることのないように願っています。日本の伝統文化を考え、手書き文字の重要性を、この筆耕のお仕事を通して更に確信しているところです。

こうして、シルバー人材センターの皆さんと共にお仕事出来ることを、とてもうれしく思っていますし、感謝しております。